

レポート名

町の伝統のクジラ船

名前

吉元 勇人

きっかけ

今年の10月に校内発表会でクジラ船祭りをしました。発表してみて、もっとクジラ船について深く知りたいと思い、クジラ船について調べました。

祭りの名前

クジラ船

開催日

9月27日・28日

開催地

鳥出神社



どんな祭りか

富田地区に伝わる陸の上で行うクジラをとる真似をする祭りです。豪華な船が張り子のクジラを追いかけて銚子で仕留める祭りです。

調べたこと

クジラ船は1781年に魚を捕れていることの感謝と、来年も魚が取れるようにお祈りする形で始まりました。クジラ船は、豊漁・豊穰・富貴・地域の安全を願う祭りです。

地域に伝わるクジラ船は、ユネスコ無形文化遺産というものに登録されています。ユネスコ無形文化遺産とは、形のない文化遺産の保護等を目的としたものです。

クジラ船祭りの流れについて説明します。まず演技が始まってクジラ船が横に揺れます。その後、クジラが逆襲してきたり、クジラを追い詰めたりを繰り返して、最終的に銚でクジラをついて演技が終わります。2tあるクジラ船を20人ほどで動かします。とても迫力のある祭りです。

名前

吉元 勇人



参考

四日市市役所鳥出神社鯨船行事：ホーム

校内発表会での取り組み

名前

吉元 勇人

校内発表会では、演技グループ、PRグループ、劇・プレゼングループ、アートグループの4つのグループに分かれて活動しました。演技グループでは、太鼓をたたいたり、船を揺らしたり、船の上で踊ったりします。PRグループではパンフレットやプログラムの作成、ほかのグループにインタビューをしました。劇・プレゼングループでは、劇でクジラ船の由来を分かりやすく表したり、クジラ船のことについてわかりやすく説明しました。アートグループは、1万個のキャップを使って、クジラ船のキャップアートを作りました。僕はPRグループでパンフレットを作成しました。法被の色や船の飾りの説明を3人で担当しました。

発表会を通して、クジラ船祭りの大切さ、さらに大変さなど様々なことを知ることができました。



写真の説明

クジラ船祭りの演技をしている画像

くじら船祭りの課題とこれからについて

このように説明したクジラ船祭りですが、いろいろな課題があります。例えば人口が減少しており、さらに少子高齢化が進んでいるという課題です。さらに人口が減少しているという問題もあります。少子高齢化によって役を演じる人が少なくなっています。

何年も祭りに出られなかった組もあります。組は、北島組、中島組、古川町、南島組があります。その中でも特に中島組の人が減少しており、世帯数で表すと、北島組が210、南島組は231、古川町が165であるのに対し、中島組は52であるのが現状です。しかも在住者の多くが高齢者であり、祭りやお盆に帰省する元町民とその子供たちが頼りという状態です。小学生が担わないといけない役割を担える小学生が、組の境内にはすでに2・3人しかいないのが現状です。

それに対して四日市市は四日市大学と連携して、COC事業に取り組んでいます。COC事業では、大学の講義で鳥出神社のクジラ船行事を取り上げて、祭りに参加してもらっているそうです。僕も、そのような課題を解決するためにこの祭りに参加していきたいと思います。

名前

吉元 勇人

